

— 告 告 —



中嶋唯人 (なかしま ゆいこ)
金沢工業大学工学部工学研究科
バイオ・化学専攻
博士前期課程二年
富山県立富山高等学校出身

「腸活」に理想の甘酒は？ 探求心育んだ「越中売薬」

人間の免疫力にとって重要な役割を果たす小腸。その機能を高め、腸内環境を整えるのに欠かせないタンパク質の研究に、中嶋さんは取り組んでいる。

きっかけは、所属する尾関健二研究室で携わる甘酒の分析である。米麹で発酵させたノンアルコールの甘酒は、高い栄養価から「飲む点滴」と言われ、コレステロール低減

や便通の改善、肥満抑制などの効能も確認されている。尾関教授によると、小腸に集中する免疫細胞を活性化させるキーとなるのが、腸まで分解されずに届く難消化性タンパク質「レジスタントプロテイン」。中嶋さんは、その含有量を測定するだけでなく、含有量を増やす製造方法を実験で繰り返し探ってきた。

「米麹の発酵温度や時間を変えただけで、レジスタントプロテインの含有量が違ってきます。さらに、使う米の品種によっても異なるため、最適解にたどり着くまで本当に苦労しました」

実際、産学連携で進められたこのプロジェクトで、「腸活」に理想の甘酒が完成するまでに、構想三年、開発三年を費やしている。「今年七月、その新商品がついに発売され、充実感がいっぱいになりました。いまでは、毎朝、一杯の甘酒が生活習慣です」。思わず弾けた笑顔は、研究の醍醐味にふれた証しにも見えた。

中嶋さんの夢は、「地元に戻って医薬品の製造に携わる」である。配置薬と先発後利のシステムで、古くから全国に知られる「越中売薬」のふるさと富山県は、全国トップクラスの医薬品生産額を誇る。「研究で身につけたことを、安全がより厳格に求められる医薬品製造の

分野でぜひ活かしたいと思っています。それに……と継いだ言葉に、彼がこの進路を強く希望する理由も垣間見えた気がした。

「小さい頃、風邪をひくと、看護師の母は配置薬の箱から僕の症状に一番効く成分の薬を選んで飲ませてくれました。それぐらい配置薬は身近でしたし、僕が化学好きになったのも、多分、そんな環境にあつたからだと思います」

KIT入学後のエピソードが、また面白かった。「ドラッグストアに薬を買いに行くこと自体に抵抗感があり、しかも風邪薬の種類が少ないのに驚きました。おかげで、配置薬が重宝され続ける訳が分かりました」。中嶋さんみみないな頼もしい担い手が、「越中売薬」を支えていく。その未来は、望月が照らす中秋の空のように澄み渡っている。

金沢工業大学

石川県野々市市扇が丘七二一
電話番号 〇七六二四八二〇〇

KIT
キャンパス
レポート
文・杉村裕之